

平成 28 年度横浜市立上菅田中学校 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 小学校時代から、学習習慣が身につけていない生徒への支援が喫緊の課題
- (2) 特別支援が必要な生徒への対応は、コーディネーターを中心に進んでいる
- (3) 授業力の向上に向け、授業研究会・職員研修会などを開催し学力向上につなげている
- (4) 地域と学校の関係はとても良い、学習支援への取組について実施予定

2 3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 授業力の向上を常に図り、家庭学習(自発的学習)の充実を実現し、学びの連続性を持たせた学力の向上につなげる。主体的・能動的な学習への取り組みができる生徒を授業で育成します。
- 自分の考えを、相手が納得できるよう説明できる表現力を身に付けさせます。
- 学ぶ喜びを感じられる授業づくりを進める。基礎基本を定着させるとともに、考える力や表現する力を育てます。

3 横浜市学習状況調査等からの平成 27 年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学年によって、違いが見られ、学年が上がってもその傾向が維持されている。学習意識や生活意識の違いが学力に反映していることが分かる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科；書き取り・書くことが課題
- 社会科；資料活用能力の育成が課題
- 数学科；数学的な思考力や考え方に課題
- 理 科；実験に意欲的に取り組む。興味関心は高いが思考力に課題
- 英語科；英語の活用に課題（表現の能力に課題）

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学年を問わず、学校生活で自分の考えを発表する意識が高い。また、時間や学校のきまりなど約束事を守ろうとする生徒が多く、人の気持ちを考えて行動している。また、朝食の喫食率も高く、安定した生活を送っている。朝読書の継続により読書への意識も高まっている。

学習に対する意識は学年があがるとともに高くなる傾向がある。学力向上を図るためには、1年生のときから学習習慣を身に付けることが大切であると考え、授業実践の中で意図的・計画的に支援していく。

4 平成 28 年度 目標と具体的方策

目 標

- 学習習慣の確立とその定着を図るため、各教科授業実践の中で意図的・計画的に指導する
- 学習習慣の身につけている生徒が、皆の手本（リーダー）となれるよう積極的に支援する

(1) 学校組織としての共通の取組

○分かる授業の保障

特に言語活動を重視し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。自分の考えを人前で表現できる力を育成する

○学習習慣の確立

反復学習することを意図的・計画的に指導する。その為に、学習成果がすぐに出るよう評価時期やテスト法などを工夫改善していく

(2) 学年・教科等としての取組

国語	社会
○漢字等、基本的な事項を反復学習 ○辞書を活用し、語彙力をつける ○基本的な学習習慣の定着	○分かるから楽しい授業の実践 ○興味・関心を高めるような資料提示 ○復習等の反復練習の回数を増やす
数学	理科
○単元の終わりに確認テスト ○身近な事象と数学が結びつくよう授業改善 ○授業開始直後の小テスト実施 ○家庭学習の充実	○実験や観察のレポートを通して論理的な思考や表現を育成 ○基礎知識の定着と活用
音楽	美術
○表現方法の一つである音楽を身に付けさせる ○常に音楽と触れ合える環境づくりを推進 ○生涯教育の一環として認識させる	○学校行事との連携を計り、行事に生きる形の作品にすることで、作品制作の関心と意欲を高める。 ○生徒作品の校内掲示をすることで、他学年・他クラスの作品を見る機会を与え、鑑賞の力を高める。
技術・家庭	外国語
○生活に関連した知識・技能を日常的に実践させる ○実習が大切な表現材であると意識させる	○AETの積極的活用（日常、校内で外国語に触れ合う機会を増やす） ○単語や文法事項の反復学習を行う
特別活動	総合的な学習の時間
○話し合い活動のルールを学ばせる ○問題解決の方法として話し合うことの大切さを学ばせる	○キャリア学習を中心に据えるが、コミュニケーション能力や表現力の実践の時間として評価していく
個別支援学級	☆保健体育科は「体育健康プラン」 ☆道徳は「豊かな心の育成プログラム」に記載
○将来の社会自立に向けたコミュニケーション能力の育成 ○個々の状況に応じ個別の指導目標を立て、指導の充実に更なる	